

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第120号

ななえ古写真物語

VOL. 120

記憶をつづる

大根干し風景

昭和20年代後半か

藤城地区



今回紹介する写真は、当館の常設展示室に掲示している中からの一枚である。残念なことに、詳しい情報が記された台帳がないため（私が見つけれないだけかもしれないが）、場所や年代など確証を得られないでいた。恥ずかしいことに、そういった類の写真は、他にもたくさんあり、この誌面で紹介できずに、眠ったままである。

さて、この写真を見ると、漬物を作るため、おびたしい数の大根が、稲干しに使う「ニオ」にかけられ、その前では一家が総出して、大きな桶を使って大根を洗っている。そんな秋の風物詩が生き活きと記録されている。

今では、これほど大掛かりに大根を干している景色を町内では見ることはない。時折、ガードレールに並べられているのを見ることはあるが、ほとんどが、軒に並ぶ程度である。写真のように、まるで大根で壁を作ろうとしているような、3段にも及ぶこともなく、懐かしい景色だなと思いつつも、なぜか、さびしさを覚えてしまう。

少し前の七飯町では当たり前だった風景が失われていくのは、時代とともに暮らしや社会が変容したことの証なのだろう。

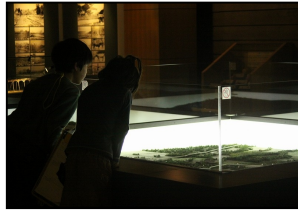
ところで、数年ほど前のことだが、館内を巡回していた時、常設展示室を見学していた方に、呼び止められた。足をとめ、話を聞いて驚いた。この写真に写っているのは、自分の家族だということだ。

その方が言うには、年代は昭和20年代後半だろうとのこと、場所は、七飯町の藤城地区で、収穫した大根を近くの川まで運び、洗って干していたという。数が数なだけに、作業には親戚にも手伝ってもらったそうだが、その時に写したものだという。

話をしてくれた方も、当時はまだ子供だったので、記憶があいまいなところもあるとおっしゃっていたが、想像でしかなかった細かなデータに、確実性が増したのは確かである。

展示室を見回り、ふと、この写真を見た時に教えて頂いたことを思いだし、その時聞いたことを文字にして残す必要があると考えた。実際、聞き取った事柄は、メモしてどこかにしまっているのだが、どの引き出しにあるのかが、思い出せない始末。せっかく語ってくれた方の想いを無駄にはできないと、今回は、その記憶をつづらせて頂いた。後世に伝える役割を担えることを願うばかりだ。

6日 東大沼小学校の3年生が来館されました。元気よくあいさつをし、常設展示室に入ると、あまり目にすることがない農具や道具がたくさんあることに驚いていました。事前学習で、おおまかな知識を携えてきた様子でしたが、教科書から、重さや触感は伝わりません。実際に農具を持ち上げ、大きさや重さを実感することによって、その違いを学習できたと思います。また、リクエストがあった計算機と秤を用意し、対面を果たした児童さん、「どうやってつかうの?」と興味深々。見て、触れて、感じる学習はどうでしたか?

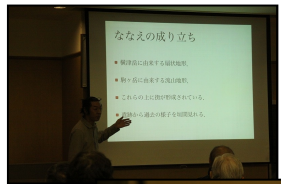


18日 ジュニア探検クラブは、道立函館美術館と五稜郭タワーに見学に行きました。開催中の『招き猫亭コレクション 猫まみれ展』を見る前に学芸員の方から作品の見方について、「いろんな方向から見て、自分なりに想像することが大切」と教わった子供たち。展示室で気に入った3点を選び、その後発表しました。五稜郭タワーでは、施設が作られた経緯や五稜郭の成り立ちなどを学習。天気を味方につけて、遠望の景色も楽しみました。



22日 歴史館友の会の学習会「七飯を知ろう」を行いました。地名の語源から始まり、地形や地質、町内で発掘された遺跡のお話しでは、出土された土器に触れてもらいました。

また、大沼の特有の地形や駒ヶ岳の噴火の歴史も七飯を知る大切な要素です。流山地形は、本州の人が見ると、田畑に点在する古墳のように見え、しかし昭和に入ってから、崩されているという現実。外からみた「七飯」も知ることで、より興味の幅が広がった時間になったのでは、ないでしょうか?



1月の予定

1	月	年末年始休館日
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	企画展OPEN予定
7	日	
8	月	成人の日
9	火	
10	水	夜の博物館
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	ジュニア探検クラブ
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

12月31日～1月5日は休館です

今年の一冊

学習室に置く本は、分野が偏らないこと、厚さ、装丁の美しさなどをリサーチをして、決めています。個人的な今年の一冊はこれです。



編集後記 ~tawagoto~

いつもよりはやく根雪になった。しんと降り積もって、白の世界を造りだしている。遠くの音も吸い込むような雪の中、当館のバードテーブルには来客がみられるようになった。ヒマワリの種を求めるカラ類、脂を欲するカケスたち。どこからともなく現れては、エサをもって林の奥へ消えていく姿に、鳥たちのたくましさを感じずにはいられない。今年もそんな冬がやってきた。(やまだひさし)

~ピチャリ~
Richard 第120号

平成29年12月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp